

守山まるごと活性化プラン検討委員会（第4回全体会議）議事録

日 時：平成26年2月21日（金）19：00～21：00

場 所：吉身会館

出席者：【委員】：布野委員長、高野副委員長、河野委員、小西委員、杉田委員、高谷委員、竹村委員、谷口委員、（代）井上委員、中委員、西田委員、西村委員、日下山委員、舟橋委員、本城委員、三宅委員、村上委員、山岡委員

【事務局】：宮本市長、島戸政策調整部長、大寄政策調整次長、木村課長、坪内課長補佐、吉原主査

【その他】：関係職員、コンサルタント

次 第

- (1) あいさつ
- (2) まるごと活性化プラン（案）について
- (3) 各学区説明会について

1 開会

あいさつ（市長、委員長）

2 議事

(1) まるごと活性化プラン（案）について

布野委員長	前回までのように学区ごとに意見を求めたり、個々に指名はしないので、活発に意見を出していきたい。第3章の学区別プランと学区を横断するテーマ、第4章の計画実現に向けてどうするのかという、大きく2つのテーマがあると思う。順番に発言いただきたい。
本城委員	各学区のプランは、まずはじめに概ね5年をめどに取り組むということだが、中洲学区のテーマとして掲げている野洲川河川敷の公園化は、既に国や県の予算で動き始めている。こういった場合、市としての支援はどのように考えるのか。
宮本市長	学区別プランのうち、ソフト事業については、地元を中心に取り組んでいくことになるが、学区会館や担当部署を中心とした人的支援のほかに、平成26年度予算で学区ごとの視察や勉強会などで自由に使えるお金として、20万円の活動費を計上している。 行政が担うハード整備について、平成26年度に予定している事業を学区別

	<p>に説明すると、守山学区は伊勢遺跡の保存整備を行う。吉身学区は下之郷遺跡の1次整備が完了しているので、2次整備に取り組んでいく。小津学区は新守山川沿い遊歩道と桜並木等構想を上げており、構想検討について来年度予算を確保している。玉津学区は諏訪屋敷の保存整備について、具体的内容を検討していく。河西学区は花いっぱい回廊について具体的構想を詰めていく。速野学区は、既に取り組み始めている大川ボードウォークの実施設計を行う。中洲学区の野洲川高水敷を活用した公園整備についても、既に基本構想が出来上がっているため、実施設計を行う。</p> <p>核となる事業の進捗度が各学区で違うため、平成26年度はそれぞれの進捗度にあった予算措置を行っている。スタート時点は違うが、5年後には各学区ともメインプロジェクトが何らかの形になっているといったイメージを持っている。</p>
本城委員	<p>まるごと活性化プランはみらい政策課が担当するということが、野洲川河川敷の公園化は国県事業対策課である。行政の役割分担をどう考えているのか。</p>
事務局	<p>みらい政策課は主管となって、必要な予算を確保し、会館とともに学区の取り組みをサポートしていくが、設計など個々の具体的な内容はそれぞれの担当課で行っていくこととしている。</p>
井上委員	<p>各学区での有意義な議論が元になっているので、学区別プランには最高のたからものが詰まっていると思っている。中身については、学区別に精査されているので、このプランを実現していけば守山市は良くなるだろう。</p> <p>しかし、地域が担うソフト事業を誰が進めていくのかが大きな課題である。既存の自治会活動が忙しい中で、今年度は各学区でまるごと活性化の検討を行ってきた。それだけでも大変であったのに、来年度からこのプランに多く上がっている地域での取り組みをどのように進めていけばいいのか危惧している。行政と地域が一緒になって真剣に考えていく必要があるが、行政はその辺りをどのように考えているのか教えていただきたい。</p>
委員長	<p>今のご意見はコミュニティベースでの取り組みの核となる話である。</p>
事務局	<p>今後時間をかけてしっかり議論していかなければいけない問題である。行政側も地区会館や担当課が一丸となって、地域の取り組みのサポートを行うことにしている。そのためには、地区会館の機能を強化し進めていくことになるが、一方で行政からの押し付けではなく、地域の自主性を尊重しながら、地域と一緒に考えていくという立場で進めていければと考えている。</p>
宮本市長	<p>自治会を考える会の立ち上げは学区の自治会長会であり、伊勢遺跡に関する</p>

	<p>る取り組みは該当地域、ホタル保護などはびわこ豊穰の郷も一緒に取り組むなど、「地域」の主体が、取り組みによって異なる。来年度以降、誰がやるのかという「地域」の実施主体について議論していきたい。できるだけ地域の皆さんの負担が少なくなるように、NPOなどの関連団体も含めて、地域の皆さんと取り組みを検討していきたい。</p>
井上委員	<p>取り組みの原点は地域の自主性である。自分たちのためになるということが取り組みの原動力になると思うので、地域から本当に必要な取り組みを進めていければと考えている。しかし、現状でも自治会役員を見つけるのも大変な状況であるのに、新しい会を立ち上げて、新たな人材を確保するのは非常に難しい。金銭的援助が好ましいとは思わないが、全くのボランティアでは難しいのではないか。</p>
宮本市長	<p>本来は年次計画であるが、今年度はそこまでの議論が進んでいない。ハード整備は行政が責任を持って行うので、来年度以降、地域でのソフト事業の優先順位を決めて、誰がどのように取り組むのか、是非地域で進めていただきたい。</p>
井上委員	<p>地域の人材にも限りがあるので、まるごと活性化の取り組みを進めるためにも、地域での負担が大きい既存の自治会活動の整理や改善について、是非、行政でも検討していただきたい。</p>
委員長	<p>自治会と自治体の関係については、全国でも同様の問題が生じている。コミュニティアーキテクト制度による学生の参画や、NPOの参画など、自治体と地域をつなぐ仕組みができればと思っている。</p> <p>プランをまとめて終わりではなく、来年度以降ひとつずつ詰めながら、新たな仕組みや調整をしていくと理解したい。</p>
事務局	<p>平成26年度当初予算に計上しているまるごと活性化推進事業の予算案について説明させていただく。地域での取り組みへの支援については、学区での検討及びソフト事業など実施経費として、先ほど市長から説明があった各学区に20万円支給されるソフト事業等実施経費のほか、7学区分の会議開催経費やアドバイザー派遣等経費についても盛り込んでいる。また、行政が実施するものについては、まるごと活性化に関連する事業として、各学区で行政が行う事業の経費を確保している。</p>
宮本市長	<p>伊勢遺跡や下之郷遺跡、諏訪屋敷の保存整備は文化財保護課、新守山川の遊歩道や河西の花回廊など構想段階の取り組みはみらい政策課、大川水辺環境整備は道路河川課、野洲川河川公園整備は国県事業対策課が担当する。</p> <p>取り組みの熟度が高まるほど、技術力を持っている原課が行うことになる。来年度事業の予算額は学区によって違うが、進捗度にあわせて予算要求さ</p>

	れているということをご理解いただきたい。
竹村委員	予算額には、国や県からの助成も含まれているのか。
宮本市長	構想設計段階のものについては、活用出来る国や県の補助がない。実施設計段階など、熟度が高まると国や県の補助の対象となるので、可能な補助金は活用することとしている。伊勢遺跡の整備については国の補助金を活用することとしており、諏訪屋敷や野洲川河川公園の整備も国の補助の活用を検討している。
西村委員	市域をつなぐキーワードに「水と緑、伝統、人」があがっているが、結局は人である。取り組みだけ決めて担い手を探すのではなく、地域でのつながりを持って、興味のある人を見つけ、育てていくことが重要ではないか。「地域を良くしたいと考え行動する人」をどうやって見つけていくのかが、一番重要であり、自治会長や学区長が先頭になって、地域で次のリーダーを育てていきたい。
村上委員	子育て世代の専業主婦、子育ての終わった世代、退職後の世代などは、何かしたいがどう行動していいかわからないという思いを持っている人も多い。一例であるが、各公民館のほっとステーションには母親の参加も多く、そこで声かけすれば、人材が見つかる可能性があるのではないか。また、例えば、諏訪屋敷の活用方法として、地域の食材を活用したお弁当屋やカフェなどをすれば、活動による収入が生まれる。経済に結び付く活動ができれば、地域のモチベーションアップにつながるのではないか。
委員長	地域を担う人材育成の話が中心になっているが。
宮本市長	ファシリテーターの育成や高齢者パワーを活用した人材活用などは、既に協働のまちづくり課や生涯学習課で平行して取り組みを始めている。まるごと活性化の取り組みでも、最初の段階から地域の人を巻き込むことが重要なので、是非このプランの中にも人の育成や掘り起しの視点について書き込んでほしい。
村上委員	地区に1つは中学校があるので、中学校の生徒会にプロジェクトを投げるなど、中学生を巻き込むことは可能なのか。
宮本市長	アイデアを募ることはできるが、中学生に責任を持ってプロジェクトを任せるのは難しいと考える。学区単位で地域の担い手を議論する中で、子どもたちの参加についても来年度以降検討していければと思う。
事務局	生涯学習課や協働のまちづくり課とも検討しながら、4章の中で人材の発掘や育成について明確化させていただく。 「大川活用プロジェクト」では地域の子どものほか、環境学習の場として立命館大学中・高にも3年ほど参加いただいている。中学生の参画について

	ては、取り組みの中で個々に考えないと、難しいのではないか。
村上委員	中学生の子どもを持つ親として、考える力や、観察から学びとる力が学校教育に欠けていると感じている。自然や歴史は教育の一環として重要だと思うので、子どもたちが自分の足で自分の地域を見て、その中からどうしたらいいのか考え、それがひとつでも実現に結びつく働きかけができるといいなと思う。
委員長	大学生に参加してもらうのはどうか。
舟橋委員	学生が地域の中に入っていくことは、教育の側面だけでは難しい。学生が地域にのめりこめる仕組みをつくらないと、教育の点だけでは、単位さえ取ればいいとなりかねず、地域のためにならない。地域の人と一緒に資源を発見したりマップを作成することに、学生を巻き込んだほうがいいのか。地域の人にとっては当たり前のことでも、学生の目でみると新たな発見がある。
杉田委員	中学生も忙しいとは思いますが、各中学校において体験学習を実施しているので、こういうものを活用して、町内行事に中学生を巻き込むことは地域の活性化につながるため、重要ではないか。 こだわり滋賀ネットワークで、大学と農産物を活用したコラボを実施したことがあるが、大学生は新しい発想で新しいことを教えてくれるので、是非参画できるような仕組みをつくっていただきたい。
宮本市長	今回プランを作成する際に、県立大学にも参画いただいたので、プランの実行にあたってぜひ大学生の力を借りたい。今後、各大学に参画への協力をお願いしていきたい。
河野委員	琵琶湖周辺地帯の地下水調査研究で工学博士の学位を取得した際には、地元に入り各中学校の理科の教師に話を伺ったので、学生の卒業論文として大学生に参画してもらうことは、十分に可能だと思う。 先ほどから人材育成の大切さについて話が出ているが、人材育成にはリーダーが必要である。子どもたちが自分たちの住む地域を良くしたいと関心を持つことが必要であり、子どもの背景には家族がいるので、みんなが守山を良くしていきたいという意識を醸成することにつながる。 このプランはひとまず5年で取り組むということだが、とりあえず5年で一生懸命取り組んで終わりではなく、人材育成も含めて継続していくことが重要である。 前回、藤井委員からこのプランには自由な発想があってもいいのではないかという意見があったように、これは行政の計画を決めているのではなく、守山の良さを伸ばしていくための将来ビジョンである。自然と人間の共生

	<p>や住みやすい守山にするための取り組みなどが集約され、学区ごとに非常に良い方向で議論が進んでいるので、具体化できるもの以外であっても、きれいなまとめられていなくてもいいので、大きな夢がもっと含まれていてもいいのではないかと考えている。</p>
事務局	<p>40 回を超える学区別会議の中で、ここに上がっている取り組み以外にも多くのアイデアが出た。しかし、このプランは行政の計画でもあるので、できることから取り組んでいくことになる。資料編には各学区で出た意見を全て掲載するので、プランを見れば各学区の夢や思いがわかるようにしたい。</p>
宮本市長	<p>本日の資料には概ね 5 年かけて優先的に取り組んでいくものを上げているが、プランの本編に掲載している取り組みにも、地域の皆さんの思いが詰まっているので、トータルで是非みていただきたい。</p> <p>人材育成や人を巻き込むことは重要な視点であるので、大学生や中学生を巻き込んでいくといった具体的なことについても、4 章でしっかりと書き込みたい。また、経済との連携も重要な視点であるので、これについても 4 章に記載したい。</p>
小西委員	<p>キャラバンメイト（認知症サポーター）活動の中で、中学校の美術部の生徒に紙芝居の作成に協力してもらうなど、中学校のクラブ活動を通じて一緒に取り組んでいる。子どもたちにいろいろな経験をしてほしいという親の気持ちもわかるが、中学生は塾や部活動、スポーツクラブなど非常に忙しいので、既存の授業等の枠組みの中でお願いしていけば、中学生の参画も可能ではないか。</p> <p>各自治会で実施している防災訓練等の活動への子どもたちの参加が少なくなっていたが、中学校への広報を強化したことで、学校から防災訓練への参加を呼びかけてもらうことができ、中学生の参加率が高くなってきた。まずは、参加していただくことが第一歩である。</p> <p>また、各家庭での参加はなかなか難しいが、子ども会の活動であれば保護者も参加させやすい。各自治会に子ども会があるので、子どもが参加できる地域の活動について子ども会を含めて考え、保護者に取り組みを知らせることも重要なのではないか。</p>
村上委員	<p>子ども会で、毎年親子活動をしなければならないが、何をするか考えるのにいつも苦労している。結局毎年ボウリング大会などを実施しているので、かわりに、地域のたから発見ツアーなどの活動につなげていければいいのかもしれない。</p>
高野委員	<p>自治会活動では会議も多く、人材不足で苦労している。昔からの慣習で実</p>

	<p>施している会議も多いので、会議を集約するなど、河西学区でも昨年度から改善を行っている。</p> <p>どんな取り組みも「人の輪」がもとになる。5年あるので、あまり焦らず長期的観点で進めていきたい。まずは4月からできることから始めていき、モデルケースとしてひとつずつ進めていく。ひとつでも成功例が出来れば、次の取り組みにつながる。</p> <p>全体で募集しても集まらないが、個々に話をすると人材が見つかることも多い。情報提供を行い、小さな仲間をつくるのが大きな輪になる。私の自治会では、各家庭でエアコンをつけるかわりに、自治会館でみんなで過ごすといった「クールシェア」を夏休みの22日間に行なった。その中で、世代を超えた住民同士の交流が生まれ、子ども同士が遊び、よその子に注意できるようになるなど良い環境になる。このように日常活動から始めれば取り組めるのではないか。</p>
山岡委員	<p>生涯学習課のまちづくり推進会議のもとで、学区の中でも4部会が開催されているが、活動が毎年同じでマンネリ化しているため、この機会に組織改革を行おうと取り組んでいる。また、新たな活性化を図るため、新しくふるさとづくり委員会を立ち上げ、新しいまちづくりを進めている。</p> <p>自治会活動は行政から押し付けられているという意見も多いが、まるごと活性化の取り組みは、地域の中から出てきたものであるため、地域が盛り上がっている。</p> <p>本編の「速野学区はこんなまちです」の年齢別人口割合のグラフが間違っているので訂正していただきたい。</p>
委員長	盛り上がっている学区もあるようである。
高野委員	<p>各学区に共通した取り組みとして、マップづくりがあげられる。他にも商工会議所青年部の遺跡巡りマップや公共交通会議の路線バスマップなどの作成が進められている。</p> <p>今回の学区での検討の中でも、自分の住んでいるまちについて知らなかったという意見が多く出ていた。まずは自分の住むまちを知ることが大切であり、そういう意味でも各学区でマップをつくり、それを集め、市全体のマップとして他団体ともコラボしながらひとつにまとめていくことを提案したい。他府県からの来訪者にも役立つようなマップを作成すれば、市全体の活性化にもつながるのではないか。</p>
事務局	事務局でも同じようなことを想定している。今後の進捗管理の中で、学区の取り組みを調整することで、全域に広げていくことは大切であると考えている。まるごと活性化なので、学区でつなぎ、さらに全体をつなぎ、市

	全体の活性化につなげていきたいと考えている。
宮本市長	プランの中に学区別に掘り起こしたたからものを図示したものも入れていきたい。また、優先的な取り組みについても図示したものを報告書に盛り込んでほしい。ここまで積み上げたものをベースに今後5年かけて積み重ねて充実していくことになる。
事務局	学区のたからものについては、今後掘り起こししていく必要があると思っている。今後、たからものを順次追加できるように、ベースとなるものを作成する。
委員長	配布資料の水網図について説明していただきたい。
宮本市長	守山は水網都市であるという意見をお伺いした先生からいただいた図である。現在と大正9年の水路網を比較したものである。琵琶湖総合開発で琵琶湖側は大きく変わっているが、今守山に流れている河川の多くは大正9年当時から変わっていないということがわかるので、プランの中に入れてほしい。
村上委員	夢を語ってもいいということなので、実現できるかどうかは別として、たからものマップができた後に、実際に人を呼び込むひとつの例として、市全体での守山探検大会をつくり、マップをもとにオリエンテーリングをするなど、みんなで見つけたたからものをもとにした人を呼び込む仕掛けづくりを考えていければと思う。
委員長	最後は基調講演者の高谷先生に発言していただくので、他の委員からもご意見があればいただきたい。
谷口委員	実際の取り組みの旗振り役は学区長であるという使命を感じている。玉津学区でも26年度からひとつのテーマにきちんと取り組んでいく必要があるが、あらゆる年代の人を集める工夫のテーマをどれだけ盛り込めるかである。3年前から諏訪屋敷の企画を行い、各年代に沿ったテーマを検討してきたので、これを学区全体に広げ、そのテーマの中での人材探しをしていく。自分たちが今まで実施してきた活動を拡大して、いかに人を集めるかであると思っている。
中委員	びわこ豊穰の郷で1年間取り組んできたオオバナミズキンバイの除去活動では大学生やボーイスカウト、高校生などの多くの学生がロコミで集まった。これは、オオバナミズキンバイを絶対に駆除していかなければいけないという強い気持ちをきちんと伝えたことが成功の要因だと思っている。若者に動いてもらうには、実施主体側の強い意気込みと取り組みの方向性をしっかりと決めることが大切である。学生や子どもたちを巻き込むことは大切ではあるが、困っているからとりあえず大学生や中学生に参加して

	<p>もらおうという姿勢では上手くいかない。参加したけれど何をしたらいいかわからないし主体的には動かないという若者のほうが多く、大人だけで活動の方が楽かもしれないので、主催者側の相当の覚悟が必要である。</p>
三品委員	<p>吉身学区では守山学区と連携した取り組みが多いが、吉身学区では、まだ誰が主体となって進めるかという話まで進んでいない。自治会長会議で項目ごとに具体的な計画書を作成するなど、方針決定に向けて検討を進め、NPOとも協働しながら、できることから取り組んでいきたい。</p>
小西委員	<p>会議を開いて、ひとつひとつ進めていくことが大事であると思う。必ずしも地域に専門家がいるとは限らないが、NPO等で活動に関わっている方を探していくことも大切である。ホテル保護活動や川遊び体験、ゴミ拾いなど既に自治会などで動き始めている活動を、今後10年、20年継続して取り組んでいけるように、人材を育成することが一番の問題であると思っている。</p>
高谷委員	<p>学区別プランについては非常に心強く思う。しかし、学区にとらわれすぎたからかもしれないが、少し夢が不足しているのではないかと感じる。確かに守山は、自然や歴史資源が豊富であるがそれはどこのまちにも共通したことである。国指定史跡が2つもあるまちには他にはない。これを活かし、50年先には守山は日本一の特別なまちを目指すということを、報告書のどこかに是非とも盛り込んでいただきたい。</p>
委員長	<p>市長のあいさつも含めて、冒頭に盛り込むことにしたい。</p>

(2) 各学区説明会について

事務局	<p>3月末のプラン作成に向けて、それまでに学区別に住民を対象とした説明会を開催したいと考えているが、4月には自治会長が変わるので、説明会の時期や対象範囲も含めて、検討いただきたい。</p>
高野委員	<p>学区の説明会はどの範囲で行うのか。</p>
事務局	<p>4月以降は自治会長の組織を対象に説明したい。また地域の方に知っていただくことが大切なので、3月はパブリックコメントに変えてという訳ではないが、住民を対象に説明させていただきたいと考えている。</p>
宮本市長	<p>パブリックコメントは考慮しなくてもいいのではないかと。どのベースで説明するのか。プランの全体像と学区別の取り組みを説明できるように、説明会までに最終版が完成できるのであればいいが。</p>
事務局	<p>中間報告ではなく、最終版が完成した段階で、説明させていただくことにしたい。</p>
高野委員	<p>中間報告での説明会では意味がないと思う。</p>

宮本資料	高谷先生のご意見は非常に大事なので、1章で現状の守山の魅力を書いて、3章か4章に、市全体での将来の目指す方向を記載したい。
------	---